

**高知県農協青壮年連盟
ポリシーブック
2012年4月版**



高知県農協青壮年連盟

はじめに

1. ポリシーブックの概要について

全国農協青年組織協議会（以下、JA全青協）では、平成22年8月のJA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議にて、新たな農政運動として、青壮年部盟友による手作りの政策集である「ポリシーブック」の作成を行うことを決定しています。

このポリシーブックの作成にあたっては盟友一人ひとりが普段から抱えている日々の営農や農政の課題の解決策について青壮年部で協議を行いながら検討していき、その取り組みを通じて課題の解決や組織の活性化を目指すものとしています。

また、ポリシーブックはJAや行政といった外部組織へ、ただ自分たちの要望だけを伝えるだけでなく、課題解決のために自分たち青壮年部で取り組む内容を盛り込むことで、外部に対して、自分たちの訴えをより説得力をもたせるものとしています。

2. 高知県版ポリシーブックについて

高知県農協青壮年連盟では、自分たちが考える理想の農業像、理想の青壮年部像を描き、それに近づくためにはどうしたらよいか？ということを考え、それに向けての行動指針として高知県版ポリシーブックを作成することを平成23年8月8日開催の第3回県連役員会の中で決定しました。

その後、県連役員会にて協議の上、「高知県農協青壮年連盟が目指す、理想の農業像・青壮年部像」を決定し、理想像を実現するために、現状の課題やその解決策等について各JA青壮年部へのアンケート、JA青壮年部組織運営会議、県連役員会で出された意見を取りまとめ、県版の指針として高知県版ポリシーブックを作成しました。

3. ポリシーブックの活用方法について

各JA青壮年部で行うJAや行政との意見交換会等、外部に対して自分たちの意見を伝える際の課題整理だけでなく、「自分たちのJA、JA青壮年部、地域が抱える課題はなんなのか？その課題を解決するにはどうすればいいのか？」等をJA青壮年部員同士で話し合い、考え合う作業を通じて、みんなでJA青壮年部の役割についてもう一度見つめ直し、組織の活性化に生かす資材として活用していただければ幸いです。

高知県版ポリシーブックの考え方のイメージ

○理想の農業像

○理想の青壮年部像

理想と現状とを比較。どこがどう違っているか等を話し合い、課題を抽出。

どうしたらその課題は解決するか？を話し合う。

課題解決にあたって、誰がどのような取り組みをしたらよいかを整理。

青壮年部

行政

J A

その他

自分たちで行う事項を整理

左記の解決主体に動いてもらうために青壮年部として、働きかけ（提案・要請）を行う事項を整理。

青壮年部での取り組みや提案・要請を通じて理想を実現

理想に近づくための課題について整理を行う

高知県農協青壮年連盟の目指す理想の農業像・青壮年部像

○理想の農業像

次世代が「農業」という職業に魅力を感じ、将来にわたって、地域とともに共存・共栄できる「農業大国高知県」の維持・発展を目指す。

○理想の青壮年部像

青壮年部は青壮年部員が事業に自主的に参加することで、世代や品目を超えた若手農業者の繋がりづくりや自己研鑽ができる場であり、また、地域の若手農業者の意見集約を図り、JAに対して若手農業者の意見を伝えていくことのできる組織を目指す。

○理想像を実現するための項目

1. 長期的な営農計画が立てられる農業政策の確立について
2. 農家所得の増大について
3. 後継者の確保について
4. 青壮年部の活性化について

1. 長期的な営農計画が立てられる農業政策の確立について

(ねらい)

現行政策の課題について整理し、長期的な営農計画が策定できるよう制度改革を求めて行く。

(現状の課題)

- ・締結されれば、日本農業を壊滅させる恐れがあるT P P問題について、十分な国民的議論ができていないまま、交渉に入りかねない。
- ・消費税問題。資材購入費が増えても、その部分を販売価格に転化しづらいと思われるため、経営がより厳しくなるのではないか。
- ・政権交代による農業政策の方向転換や戸別所得補償制度の未法制化等が不安定で長期的な営農計画が立てづらい。

(青壮年部として取り組むこと)

- ・各J A青壮年部で勉強会を行い、T P P問題や消費税問題、その他農政課題が、自分たちの生活にどのような影響があるのか、ということメリット・デメリットを踏まえて学び、青壮年部員が周りの人たちへの情報発信源となれるようになる。
- ・T P P反対運動の企画と積極的な参加を行う。全国の部員と共同し、日本国民や政府に対して全力で阻止する意気込みを示すことが重要である。

(J Aへ要望すること)

- ・新しい情報を取り入れ、青壮年部を含む農業者への情報提供を行ってほしい。
- ・青壮年部での勉強会の講師等を行ってほしい。
- ・J A職員へのT P P問題の教育を行ってほしい。
- ・他J Aや他県の青壮年部同士の協力関係を取り次ぐ役割を担ってほしい。

(行政等へ要望すること)

- ・T P P交渉の場に立たない。一刻も早くT P P交渉から手を引くようにする。

- ・利権やマスコミの圧力に屈することなく、国民へ正しい情報を正直に伝えてほしい。
- ・T P Pが締結された場合、農家に対してどのような対応策をとっていくのか明確にしてほしい。
- ・過剰な増税をしない。また、行政のムダの削減など、自らの身を切る姿勢を見せないと、農家の人はもとより、一般市民の理解は得られない。

2. 農家所得の増大について

(ねらい)

農業者の所得を増やし、農業の産業としての発展を目指す

(現状の課題)

- ・農産物価格は低調傾向が続く一方で、生産資材価格は高止まりしている。
- ・消費者至上主義で生産資材価格の上昇分を農産物価格に転嫁できない。

(青壮年部として取り組むこと)

- ・市場から高く評価される農産物を作るため、自分の生産する品目の目ならし会や現地検討会等に積極的に参加し、技術研鑽を図る。
- ・積極的に消費地に出向き、地元の農産物をP Rするとともに、農産物の生産にかかるコスト・労力を消費者に直接伝え、理解を図る。
- ・食農教育等を通じて子供たちに農産物が食卓に届くまで、農家がどのような労力をかけているか、ということを理解してもらう。
- ・消費者との交流の取り組みを重ね、J A組織が価格交渉しやすい環境作りを行う。
- ・青壮年部員内で自分が行っているコスト削減の取り組み等を話し合い、コスト削減の努力を行う。
- ・利用できる補助事業の積極的な活用。補助事業に対する勉強を行う。

(JAへ要望すること)

- ・ 1円でも販売価格が上がるよう、また1円でも生産資材価格が下がるよう、組織力を発揮して取り組み、JAを利用するメリットを価格の部分で生産者に示してほしい。
- ・ 青壮年部員への補助事業の説明を行ってほしい。
- ・ 県内外で同じものを栽培している他産地の情報提供を行ってほしい。
- ・ 消費者に対し、農産物が手元に届くまでに、どれだけの手間やコストがかかってこの小売価格になっているか、JA組織でアピールしてほしい。
- ・ 青壮年部が市場視察や消費宣伝の場に参加できる機会を与えてほしい。

(行政等へ要望すること)

- ・ 今の生産資材の高騰・高止まり傾向を抑えられないのであれば、それに代わる安価な代替資材や技術の研究・開発・普及に取り組んでほしい。
- ・ 高知県産農産物のPRを継続・強化して行ってほしい。
- ・ 「消費者至上主義」的な意識を変えてほしい。
- ・ 国内外の先進技術を取り入れて、またそれが日本で実施可能なことであれば各自治体やJA等に紹介し、技術の高位平準化を図ってほしい。
- ・ 補助事業申請様式の簡素化を行ってほしい。
- ・ これからの農業を支える農家を育成するために必要な政策を行ってほしい。
- ・ 学校給食での高知県産農産物の積極的な使用を行ってほしい。
- ・ 行政組織が今後どのような農業振興案を考えているかを青壮年部にも伝えてほしい。販売ルートの形成や継続的な販売が見込める品目の探索等を共に思案・思考することが必要ではないか。

3. 後継者の確保について

(ねらい)

自分たちの地域・地元を守っていける農業者を獲得・育成し、次世代に「農業」という産業を引継げるようにする。

(現状の課題)

- ・現状の手取り・休みが少ない状態では子供に後を継がせようとは思えない。
- ・地域に若者が少ないため、後継者候補がない。

(青壮年部として取り組むこと)

- ・新規就農希望者がいたら、青壮年部行事への声掛けを行う。
- ・地域と新規就農希望者の繋がりを作る場所として機能する。
- ・地域コミュニティの中で農業を行っている仲間作りの仲介を行えるよう支援していく。
- ・高知県は園芸大国として昔から有名であり、全国でも高い評価を受けている。地域の人や自分の子供たちに「自分たちはこんなにすごいもの、こんなに有名なものを作っている」という説明が誇りを持ってできるよう、生産技術をあげる。
- ・人手が必要であり、労力のかかる仕事を青壮年部が手伝うなど、若さを生かし、出来るだけ高齢農家の負担を減らせる地域の農業環境づくりに努める。また、それに対するニーズの共有も必要である。
- ・Iターン者に来てもらうことや、地元の農家子弟の流出を防ぐために、それぞれの青壮年部が独自の工夫をこらした取り組みを行う。

(JAへ要望すること)

- ・新規就農希望者の情報提供を行ってほしい。また新規就農希望者へJA青壮年部の紹介を行ってほしい。
- ・まず地元の人に誇りに思ってもらえるような商品展開やPRをしてほしい。
- ・各種信用商品など、役立つ金銭的な支援は現在でもあるが、農業を安心し

てやっていくための営農指導的な面をもっと手厚くしてほしい。

- ・ J Aグループの取り組みと農業をPRするテレビ番組やラジオ番組の制作を行ってほしい。

(行政等へ要望すること)

- ・ 食物を生産するという産業は、人間の営みの基礎となる産業であり、「単に作る→売る」といった経済活動だけで測ることのできる産業ではなく、社会的・文化的な側面も持っている産業である。そのようなことを行政として、PRして欲しいし、「営農を継続する→地域を守っている」という視点での支援（PR、補助金）を行ってほしい。
- ・ 農業をしっかりと継続してくれそうな若者、後継者を確保すること。漠然と「農業をやってみたい」という形で入ってきて、「イメージと違った」と諦めてしまう人もいる。農業の根本である「消費者に、安心・安全な農産物を提供する」ということがいかに厳しいことであるか、ということもしっかり伝えていってあげてほしい。それがやりがいにもつながる。本気で農業に取り組みたい就農希望者が就農できるようにしてほしい。
- ・ 担い手、若手農家の公社や大学校での研修、育成やベテラン農家での就農など、就農までの教育支援を積極的に行う等、就農意欲のある農家の育成に努めてほしい。
- ・ 食農教育など、子どもに農業の大切さを伝え、大人になっても農業を大事に考える人間に育つような教育を行ってほしい。
- ・ 農業に興味をもってもらえるような制度を作ってほしい。地方の若者の流出防止や、都市部から地方への移住希望者に対する支援を資金や政策面で支えてほしい。

4. 青壮年部の活性化について

(ねらい)

品目や地域を超えた若手農業者の交流の場、意見集約の場として機能する。

(現状の課題)

- ・全体として活動には出ているが、参加する人が固定化している。また、若い世代があまり活動に参加しない。
- ・小規模人数の支部等、活動が停滞気味の支部がある。
- ・昔に比べ、J Aと青壮年部の関係が希薄になっているように感じる。
- ・若手農業者で集まり、新しい生産の仕方や売り方等を含め、今後の地域農業のことを議論する等、意見集約・議論の場にはなっている。しかし、地域の長の説得が難しく、試したいことを試せない。

(青壮年部として取り組むこと)

- ・行事に参加したことのない人には地道に声をかけ、行事を体験してもらおう。
- ・若い人が何に対して興味があるのかを聞いて、その入り口を広げてあげる。
- ・支部活動で、共通の活動内容があれば合同で行ってみたり、一緒に活動しやすい活動に他支部を招いてみる。
- ・活動内容の見直しを行い、少人数でも行える取り組みを考えるほか、新規部員の獲得など、地域に対してアンテナを広げ自分たちができる活動を拾い上げ、提案・考察する姿勢が大切である。
- ・青壮年部の活動に、J A職員を巻き込むような気持ちが必要である。自らが企画し、自らが行動する「自分たちの青壮年部」という意識をもう一度持つことが大切である。
- ・青壮年部として地域活動や行事に積極的に参加し地域に貢献することで、地域での説得力を持てるようにする。

(J Aへ要望すること)

- ・青壮年部の事務局だけでなく、他の部門の職員も青壮年部が行っている行

事に参加してほしい。そうすることで、お互いの交流になる上、行事自体もいろいろな人がいて参加しやすい雰囲気が作れると思う。

- ・青壮年部支部間やJ A職員、他の組合員組織、地域との仲介役を担い、青壮年部員が営農活動・青壮年部活動が行いやすい環境づくりに努めてほしい。
- ・青壮年部活動に参加する職員への配慮をしてあげてほしい。
- ・主役は青壮年部員であるが、いかに活動をスムーズに進行できるか考え、時には提案し、青壮年部をより強い組織にしていくことができる事務局体制を作って欲しい。